



[令和 7 年 8 月 13 日 定例会発表要旨]

手稲で三番目に出来た

「手稲北小学校よもやま話」

手稲郷土史研究会 特別顧問

永井 道充

手稲北小学校の生い立ち

明治 14 年に宮崎源次エ門らが山口県から入植し山口地域の開拓が始まる。教育は明治 19 年に生田春正が寺子屋を開いたのが始まりとされている。明治 25 年に山口村立山口尋常小学校が開校した。明治 32 年に火災で焼失し、移転し再建される。昭和 16 年に校名が山口国民学校と変わる。戦後、昭和 22 年に山口小学校に変わる。昭和 26 年に手稲村から手稲町に変わり、手稲町立山口小学校となり、昭和 40 年に手稲町立手稲北小学校となる。昭和 42 年札幌市と合併したため、校名が札幌市立手稲北小学校となる。



大きくなっていった手稲北小学校

手稲町が札幌市と合併した昭和 42 年頃から星置地域に住宅が建ち始め、児童数が増加し始める。昭和 50 年に、新校舎が現在地に移転して完成する。平成 3 年にすべての校舎増築工事が完了した。

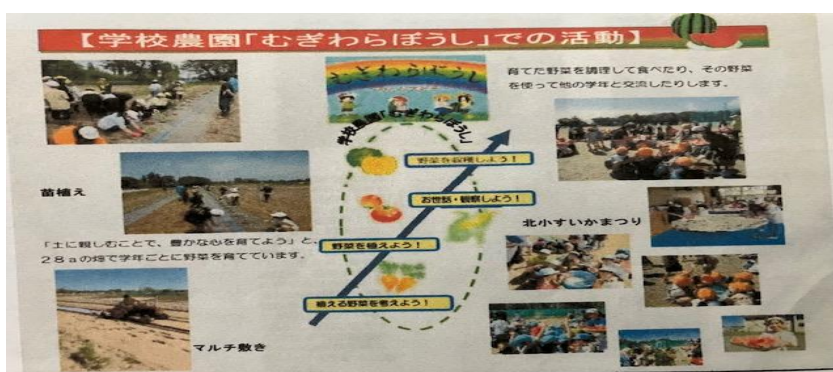
特色ある教育活動～栽培学習

1975 年(昭和 50)、地域の特産であるスイカ農家の方の「子供たちにスイカを食べさせたい」「子供たちに農業を体験させたい」という願いから始まり、50 年間も続いている。

近くの農地 2800 m²を借用し、学校農園「むぎわらぼうし」で全学年がスイカをはじめいろいろな野菜の栽培活動を行っている。農家の方の協力で畑を耕したり栽培に関しての指導助言をいただいている。それぞれの学年で収穫した野菜は自分たちで食べたり、家庭科の調理実習に活用したりするとともに、食を通じた学年の交流も行っている。6 年生のスイカ栽培のまとめとして「北小すいか祭り」として全校で味わう活動を行っている。

さらに、校区にある洋菓子店が子供たちが育てたカボチャ・サツマイモ・ジャガイモなどを利用して様々な新しい商品を生み出している。

すべては、広い学校農園と地域の人々の協力の上に成り立っている活動である。



開校百周年記念行事に燃えた PTA

100周年事業として協賛会を組織して各種の事業を行った。①資金部（同窓生、地域、PTA）②PTA 事業部（札幌コンサート、大時計設置、モニュメント、タイムカプセル、解放図書館記念誌と講演会）③郷土資料室部（農機具・生活用品展示300点）④郷土史部会（「郷土史ていねきた」236ページ 3250部）同窓会部（会員名簿作成 2200部）⑥学校事業部（教育実践発表会、学校要覧、祝う会）⑦祝賀会事業部（体育館・320名参加）⑧事務局（協賛会、趣意書、大看板2か所、紅白饅頭、郷土史と同窓会名簿の発送・・・）

30年以上たった今でも隔年に集まり交歓の場「手稲北小の会」を継続している。



林間学校の会場校

平成17年からコロナ騒ぎの前まで札幌で一番海に近い学校として札幌市教育委員会主催の「夏の林間学校」の会場校を引き受けていた。平成30年頃の最盛期には1500名の児童が夏休み中、最長3泊4日を青少年山の家等に分散して、自然とのふれあい体験をしていた。しかしコロナ後、日帰りや1泊2日になり、素晴らしい社会教育活動がしぼんでしまったのは誠に残念でならない。

GIGA スクール構想によるパソコン教育

現在、手稲北小学校ではICT(情報通信技術)を活用した教育を行っている。端末は家庭に持ち帰らないことを原則にしているそうである。

暑さ対策

昨今の温暖化現象による気温上昇により、札幌市はすべての私立幼稚園、小学校、中学校等の普通教室に常設エアコンの整備を令和7年度から9年度末までに段階的に進める計画だが、手稲北小学校は令和8年度の設置の予定である。

「手稲こども郷土史祭り」

8月15日(金)から8月17日(日)までの午前11時より午後4時までイオン手稲駅前店1階広場にて開催した「手稲こども郷土史祭り 手稲むかしものがたり」は、500人超の方に来場いただき大成功にて終了しました。

アンケート調査を行ったところ、回答いただいたほとんどの人が、またやってほしいとの回答でありました。

初日の15日には里手稲区長様はじめ地域振興課の方々がご来場いたしました。



里手稲区長（中央）沖田会長（右）



会 場 風 景

また、終了後子供たちのお絵かきの絵と折り紙に書いたメッセージがイオン手稲駅店2階の駅への通路に9月4日まで展示されました。



報 告

今年は当会の創会20周年であり、3つの事業が計画された。その一つが今回の「手稲こども郷土史祭り」である。ふさわしい会場を探していたところ、縁とは不思議なもので、6月の日曜日、偶然イオンの広場でイベントをしていた北海道科学大学の道尾先生にお会いしたところから急展開する。その場でイオン北海道のまちづくり推進部の宮村さん、吉本さんをご紹介いただき、面白い企画だということで早速具体的な動きが始まった。

1回目の打ち合わせは科学大学で6月17日に開催、当方からは沖田と濱埜が出席、科学大学からは地域連携部の浅野主任が出席され、当方から手稲の3つの宝と軽石（がるいし）軌道についての、祭りの基本的な提案をした。その後広く学内にこの行事への参加者希望者を募ることが決まった。2回目は7月7日、応募してきた4名の学生さん（武藤さん、桑原さん、藤原さん、北川さん）を含め、具体的な運営方法の検討が始まった。開催日も8月15日から17日の3日間と決まり、当方が要望していた夏休み中の開催が実現した。スタンプラリーで会場を回ることや、遺跡のお絵かき、手稲石を探そうの紙粘土の石を探すやり方、手稲山へQRコードからクイズに答えて登る、軽石軌道でターミナルからジャンプして距離を競い駅名を覚える、そして全部回ると、“テイネ人”のキーワードが完成し、「ものしり博士」の称号がもらえる、など随所に科学大学の学生さん達のアイデアが活きている。縄文土器を折り紙で作る桑原さんの企画は実現できなかったが惜しいことをした。イオンにて7月29日、8月13日と企画を最後のブラッシュアップし、必要なパネルやチラシなどを作っていただき、会場が構成されていったのである。この度はイオン北海道様には、椅子ばかりでなく、案内パネル用のイーゼルや2つ折り案内板などすべてを使わせていただいた、そして会の進行に必要なテイネ人カードや、ものしり博士の認定書任なども作っていただき、誠に感謝に堪えない次第です。茂内特別顧問が常呂から持参したクジラの骨の展示も花を添

え、素晴らしい会場が出来上がった。

終始先頭に立ってリードして頂いたイオン北海道の森岡マネージャー、吉本さん、宮村さん、若き自由なアイデアの持ち主科学大学の学生さん達、そして毎日10名ものボランティアをしていただいた郷土史研究会の皆さん、誠にありがとうございました。特に当会では中心になって活躍していただいた濱埜さんに大変ご苦勞を掛けました。企画の初めから科学大学の学生さんとやりたいと言って、ついにそれを実現し、見事予想どおり彼らは運営上の主力になってくれました。

5歳くらいの子供たちが、お姉さん、お兄さんの説明にこくりとうなずく様子は正に”お宝だ”いつもの研究会とは違った感動に包まれ、会場で集められたアンケートには知らなかった、良かった、またやってほしい、などほぼすべての方々から好感想を寄せられた。

我々は井の中の蛙ではいられない、とつくづく考えさせられた3日間でした。(文責 沖田)

—お知らせ—

創会20周年記念講演会は当初10月18日を予定してましたが、会場の都合で10月11日(土)13時よりに変更になります。

—お知らせ—

「たゆまざる歩み」第2巻

創会20周年記念として、当会会報「郷土史 ていね」の101号から200号までを合冊した「たゆまざる歩み」第2巻の発行を進めており、手稲区各戸に町内会を通じ通知しました。



次回定例会 10月11日【土】 13時00分～15時30分 区民センター2階ホール

発表内容 「手稲の恩人 蓑輪早三郎」 手稲郷土史研究会 会長 沖田 紘昭

「新駅誕生による移住と札幌の移り変わり」 北海道野外博物館

開拓の村 館長 中島 宏一氏

手稲郷土史研究会 会報「郷土史 ていね」第209号 令和7年9月10日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：菊池博行・伊藤政克

❖006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一 方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinenorekish@gmail.com 担当 菊池 博行